

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 2 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25770244

研究課題名(和文)「帝国日本」における若者の政治運動に関する比較史的研究 「中央」「地域」「外地」

研究課題名(英文)Comparative Historical Research on the Political Movement of Youth in the "Empire of Japan"

研究代表者

伊東 久智 (ITO, Hisanori)

早稲田大学・大学史資料センター・助手

研究者番号：90434373

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代日本における若者の政治運動を、「地域」(地域青年党運動)と「帝国」(台湾議会設置請願運動)という観点から捉え直し、「中央」(「院外青年」運動)に関する知見との総合を図ることを目的として遂行された。

具体的には、地域青年党運動に関する研究を 基幹的研究、台湾議会設置請願運動に関する研究を 発展的研究と位置づけ、前者については事例研究を、後者については文献調査を主として行った。それによって、前者については、1924年の総選挙前後に活動が活発化していたことが明らかとなった。また後者については、主要な先行研究の調査を終え、植民地期朝鮮を対象とした博士論文の翻訳も行うことができた。

研究成果の概要(英文)：This research tried to clarify the political movement of youth in modern Japan from the point of view of "Region" (movement of local young man party), and "Empire" (movement of assembly setting petition in Taiwan). And, tried to integrate it with the findings related to "Center" (movement of young man outside the parliament).

Specifically, I placed a research about movement of local young man party with "a basic research", and placed a research about movement of assembly setting petition in Taiwan with "a progressive research". And I mainly performed a case study about the former and performed documents investigation about the latter.

About the former, it was thereby revealed that the movement of local young man party became active before and after a general election of 1924. In addition, about the latter, I finished the investigation into main precedent research and was able to perform translation of the doctoral dissertation for Korea for the colony period, too.

研究分野：日本史

キーワード：日本近現代史 若者 青年 政治運動 議会政治

## 1. 研究開始当初の背景

日本近代史の分野において、若者を担い手とした政治運動といったとき、第一次大戦後の学生社会運動に代表される社会主義的運動を想起する向きは今なお根強い。しかしその一方で、日露戦後から第一次大戦期にかけて、帝国議会周辺では若者たちによる活発な院外活動が展開されていたという事実については、ほとんど知られていない。それは戦後歴史学が見過ごしてきた、いわば「もう一つの政治運動」である。

筆者はこれまで、そうして議会政治を前提としつつ、その「革新」を目指した若者たちの運動を「院外青年」運動と定義し、研究の対象としてきた。換言すれば、確立過程の議会政治に向き合った若者たちが、どのように政治との関わり方を模索したのかを明らかにすることで、現代に至る若者と政治との関係性を照らす光源たらしめようと努めてきた。そしてその成果を、2014年5月、博士論文として総括した。

本研究は、「中央」を舞台とした「院外青年」運動に関する研究の達成を踏まえ、そのさらなる発展を目指して構想されたものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、近代日本における若者を担い手とした政治運動を、「地域」と「帝国」、いわばミクロとマクロの観点から捉え直し、筆者がこれまで取り組んできた「中央」に関する知見との総合を図ることを目的として遂行されたものである。

具体的には、第一次大戦後に全国的な展開をみた地域青年党運動と、同様に1920年代以降に展開された植民地期台湾における議会設置請願運動を対象に据え、それらと「院外青年」運動との関係性を探るための基盤作りを行おうとした。前者は、「中央」の運動と「地域」の運動との関係性を、後者は、「内地」の運動と「外地」の運動との関係性を、それぞれ把握するための手がかりとなるものである。

その背景には、それらを通じて若者と政治との関係史という日本史の新しい切り口を実証的かつ鳥瞰的に構想するとともに、現代社会における地域あるいは国境を超えた様々な形での若者の連帯・運動を考察するための歴史的視座の構築に貢献したいとの考えがあった。

なお、具体的な検討対象は以下の通りである。

### (1) 地域青年党運動

#### 文献調査

基礎研究(補助作業)として、先行研究と自治体史(県・市レベル)の調査による事例

のリストアップを行うこと。

#### 事例研究

運動が活発に展開された地域を対象として、特に衆議院議員総選挙との関わり(選挙報道)に着目しつつ、当該地域史の把握と史料の収集を行うこと。

### (2) 台湾議会設置請願運動

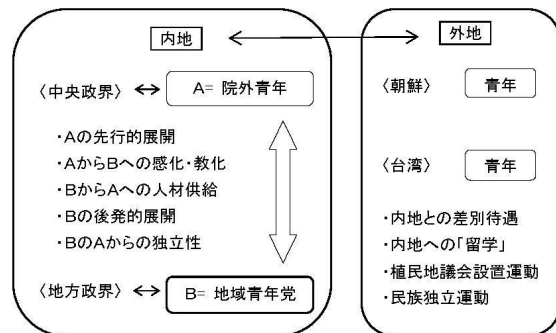
#### 文献調査

植民地研究全般及び先行研究のリストアップと読解を進めること。

#### 史料状況の把握

上記に基づき、主要史料の状況・所在を把握すること。

【参考図】「帝国」の観点からみた「院外青年」と「地域青年党」



## 3. 研究の方法

研究目的を達成するため、地域青年党運動に関する研究を 基幹的研究、台湾議会設置請願運動に関する研究を 発展的研究 と位置づけ、さらに前者を文献調査と事例研究、後者を文献調査と史料状況把握にそれぞれ細分化し、次のような順序で作業を進めた。

すなわち、平成25年度には、基幹的研究の に集中的に取り組んだ。平成26年度には、基幹的研究 ののみを継続し、同時に 発展的研究 に着手した。

より詳しい内容は、以下の通りである。

### (1) 基幹的研究

#### 文献調査

地域青年党の全国的分布とその特色を整理し、事例研究の参考に資そうとした。

#### 事例研究

当初は、1925年11月、1府10県の青年党が結んで成立した「日本海青年党連盟」を対象とすることを想定していたが、博士論文の執筆過程において、愛媛県における青年党運動の活発な実態に触れる機会があり、複数の地域を対象とする前に、まずは同県のみを対象とした実証的な研究に重点を置くことと

した。そのために、後述の出張調査を行った。

## (2)発展的研究

今後の研究推進のための基礎的準備作業と位置づけ、年度の前半期においては文献調査を、後半期においては史料状況の把握を各々課題とした。その際、性急に政治文化論的な比較に進むのではなく、まずは植民地研究及び当該史料の概要を掴むことを心掛けた。

## 4. 研究成果

上記「研究の方法」欄記載の研究分類にしたがい、その成果を整理・列挙すれば以下の通りとなる。

### (1)基幹的研究

#### 文献調査

平成 25 年度中に、地域青年党運動に関する先行研究の収集・調査を完了した。それによって、さらなる事例の発掘に努めるべきとする立場と、各事例を総合すべき段階に達しているとする立場との併存的な研究状況をあらためて確認することができた。

本研究においては、地域を絞った事例研究を行ったのみであるが、今後は、地域青年党の横断的連帯を目指した雑誌『新使命』の分析なども加え、個別分散的な研究の総合を図っていきたく考えている。つまり、地域を絞った実証的研究と、地域を俯瞰した総合的研究とを、両輪の如く組み合わせることが、研究上の展望である。

なお、「院外青年」運動と地域青年党運動との関係性については、筆者の博士論文でも紙数を割いて検討した。それによって、両者は、ほぼときを同じくして登場し、しかも一定の関係のもとで運動を展開していたことが判明したが、今後、上記のように研究を進めていくなかで、そうした知見がより補強されることも期待できる。

#### 事例研究

平成 25 年度には下記の史料調査を行った。

##### ・9月 熊本調査（熊本県立図書館）

「院外青年」集団の一つであった「鉄心会」のメンバーが中心となって創刊した雑誌『主張』創刊号（1922 年）の調査を行った。

本調査は、地域青年党運動に関する研究と直接結びつくものではないが、「院外青年」集団が関与した雑誌が東京から遠く離れた地域にまで伝播していたことを裏づけることができた。

平成 26 年度には下記の史料調査を行った。

##### ・12月 愛媛調査（愛媛県立図書館）

愛媛県における地域青年党運動の実態を、特に衆議院議員総選挙（大正期～昭和

初期）との関わりにおいて把握することを目的として、第一次大戦期に発行された地方誌『愛媛雑誌』、及び党派を異にする三種類の地方紙（『愛媛新報』『海南新聞』『伊予新報』）の調査を行った。

筆者は、同じ年度に他の研究費（学内の研究助成費）を得て、夏に二度、同様の調査を行っており、都合三度目の愛媛調査ということになる。一度目は第 12 回（1915 年）・13 回（1917 年）、二度目は第 14 回（1920 年）・15 回（1924 年）、そして三度目は第 16 回（1928 年）の総選挙をそれぞれ対象とした。

それによって、地域青年党運動は第 12 回及び 15 回の総選挙において活発化しており、特に第 15 回総選挙に際しては、様々な種類の青年党が簇生し、新聞においても大きく取り上げられていたことが明らかとなった。

##### ・2月 愛媛調査（愛媛県立図書館）

過去三回にわたって行ってきた愛媛調査の成果を総括することを目的として、第 15 回総選挙が行われた 1924 年前後の愛媛県政界の概要を各種文献から探るとともに、『愛媛県史』編纂時収集資料目録（手稿版）を確認した。

以上を通じて、第 15 回総選挙前後における愛媛県の地域青年党を題材とした論考をまとめるだけの史料を確保することができた。同選挙は、1 月 31 日解散、5 月 10 日投票という、長期間の選挙戦となった。続々と出現した青年党は、自分たちに近い立場の候補者を盛んに応援し、逆に反対の立場の候補者・青年党を攻撃した。候補者同士の間では別に、青年党によるいわば「代理戦争」が展開されていたのである。

文献調査の項でも述べたように、今後もそうした事例研究を積み重ね、地域横断的な動きとの総合を図っていくことが、今後の課題となる。

### (2)発展的研究

若林正文『台湾抗日運動史研究増補版』（研文出版、2001 年）をはじめとする先行研究のリストアップ・収集はほぼ完了したが、本格的な調査と史料状況の把握については、現在なお進行中である。

これも既述の通りであるが、「内地」と「外地」との政治文化論的比較には、慎重の上にも慎重を期す必要がある。換言すれば、表層的な理解を脱し、支配・被支配の実態を踏まえた歴史的な考察が求められる。そのためにも、今後は台湾議会設置請願運動に限らず、より幅広い視野から植民地研究の調査を継続していきたいと考えている。

なおそれと関連して、本研究では、植民地期朝鮮を対象とした李基勳氏の博士論文「日帝下青年談論研究」の第二章の一部を、業者委託により翻訳した（第一章については、平

成 23～24 年度科研費・研究活動スタート支援・課題番号 23820058 により翻訳済みである。こちらも現在、読解を進めている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊東 久智 (ITO, Hisanori)

早稲田大学・大学史資料センター・助手

研究者番号：90434373

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：